

64 Moritz Heinrich Romberg——その

プロフィールと「脊髄癆」・「半側顔面萎縮症」・「群発頭痛」の原著——

○高橋¹⁾ 昭・伊藤泰広・白水重尚³⁾

M. H. Romberg は一七九五年、ドイツの Meiningen 市にて出生し、本年はその生誕二百年の記念すべき年に当たる。

彼は、世界最初の神経病学書である“Lehrbuch der Nervenkrankheiten des Menschen”を一八四〇—一八四六年に分冊として刊行し、臨床神経学の創始者とされつつある。

M. H. Romberg は Meiningen 市のユダヤ商人 Isaak Romberg (一七八〇) の長子として Thübingen 地方の小都市 Meiningen にて一七九五年一月二一日に出生した。生家は一八七四年九月五日の大火により焼失し、現存しないものと思われる。

五歳時に父が他界したため、母は妹 Sara (一七九八

—?) のち内科学者 Eduard Heinrich Henoch の母となる) とともにプロイセン王国の大都市 Berlin へ移住した。

Berlin の das Graue Kloster (カトリックのフランシスコ会修道院)での六年間の教育を受けたのち、創立後間もない Medizinstudium an der Friederica Guiljelma に進学した。のちの Berlin 大学医学部である。このころ Johann Christian Reil (一七五九—一八一三) および Christoph Wilhelm Hufeland (一七六二—一八三六)、Carl Ferdinand von Graefe (一七七—一八四〇)らの薫陶を受けた。一八一七年三月には医学博士の学位を、翌年には薬学博士の学位を授与された。その後、神経疾患の研究をさらに進めるために Wien 大学へ留学し、ここで脊髄疾患の研究者として知られる Johann Peter Frank (一七四五—一八二二)の知遇を受けた。

Berlin 大学 Charité 病院に職を得た Romberg は一八四〇年に Königliche Poliklinik 長となり、一八六四年二月二十八日に引退するまで、神経疾患の診療と学生教育に貢献した。一八六七年三月二十九日に開かれた学位授与五十周年記念祝賀会 Doctor-Jubiläum にて Berlin 医学

会長 von Graefe, Berlin 大学総長 Langenbeck, 同医学部長 Dubois Reymond を始めと、¹⁾ Johannes Müller, Rudolf Virchow を錚々たる学者が列席した。その後も彼の不朽の名著 Lehrbuch der Nervenkrankheiten des Menschen の改訂第四版の執筆に情熱を注いだが、心疾患が悪化し、一八七三年六月一六日、その輝ける七七歳の生涯の幕を閉じた。Romberg 夫妻の墓碑は Berlin 市 Kreuzberg 区 Friedrichswerderscher Friedhof (Bergmannstraße 42-44) に現存する²⁾。

Romberg の最大の業績の一つは脊髄癆の記載であり、今日知られる Romberg 徴候もこの中に記されている。「Tabes dorsalis」の語は千年以上前から使用され、広義には脊髄疾患を漠然と示す用語であった。Romberg はその著において、本症の感覺障害の内容、経過を詳細に記載し、閉眼により起立歩行障害が明らかに増悪する特徴 (Romberg 徴候) を挙げ、病理学的には脊髄下部の萎縮、また前根に比し後根の萎縮が著しいことを記載した。當時は、本症の病因が梅毒であることは知られていなかったが、酒や誤った性欲の満足が本症発症の要因となる可

能性を示唆した。

「半側顔面萎縮症」は Romberg が甥の Eduard Henoch とともに Königliches poliklinische Institut に於いて経験した症例を収録した「Klinische Ergebnisse」(一八四六)の中で記載したもので、今日では「Parry-Romberg 病」の名でも知られる。

「群発頭痛」は一七四五年 Gerhard von Suvieten によるラテン語の古典的記載を除けば、Romberg の記載が最も古く。

Romberg はその父の代にユダヤの姓を Romberg に代え、彼自身もキリスト教に改宗した。彼の戸籍は一九四〇年 Berlin でナチにより焼却され現存せず、またユダヤ人であったためか、胸像や顕彰碑などもドイツでは建立されることがなかった。僅かな遺品が戦火を免れるため Zürich 大学医史学研究所に寄贈され、保管されている。

① 公立学校共済組合東海中央病院)

② 名古屋大学医学部神経内科)

③ 名古屋第二赤十字病院神経内科)